

個人山行報告書			報告者	藤田健治	参加メンバー	CL 藤田健治、SL 板倉英夫 塚本英吾、渡辺勝利、 岡田 晋 計5名
			報告日	5月30日		
山域	剣岳北方稜線	山行日	04年5月21~23日			
山名	毛勝山(2414m)					
山行目的	春山登山		コースタイム(天候:天気図記号)			

配布先
集会:12
山行:1
リーダー
原紙:集会担当者

<p>ルート図(地図を見て正確)</p> <p>僧ヶ岳 1855m</p> <p>魚津市</p> <p>片貝山荘 700m 板菱</p> <p>大明神沢</p> <p>毛勝山 2414m</p> <p>釜谷山 2415m</p> <p>猫又山 2378m</p> <p>2.5万図 毛勝山</p>	<p>天候:曇り後雨</p> <p>5/22</p> <p>6:05 片貝山荘発</p> <p>6:55 板菱(渡渉点)</p> <p>7:55 大明神沢出合 毛勝谷</p> <p>9:00 三ツ又、Aizen 着用</p> <p>11:00 ボーサマ谷手前</p> <p>12:15 コル</p> <p>12:30 毛勝山(北峰)</p> <p>12:55 コル</p> <p>15:20 板菱</p> <p>16:20 片貝山荘着</p> <p>5/23 曇り</p> <p>8:00 山荘発</p> <p>9:30~11:00 魚津埋没博物館</p> <p>15:30 刈谷帰着</p>
--	--

前夜半 12:30 に片貝山荘にたどり着く。魚津市生涯学習課で許可を頂いてあったが、他には富山県警山岳警備隊と2パーティが同宿となる。各部屋は改装後で真新しく気持ちがいい。

5時過ぎに起き朝食は手短かに済ませ、車を行けるトコまで出そうかと迷ったが先が見えず出発する。最新の堰堤には大きな駐車場があり10台の車が先行していた、例年の5月後半ではここまで車が入れる。

阿部木谷左岸を林道跡に沿いながら板菱に着く、ここから雪渓を歩くために右岸への渡渉となるが一人着水するもいたって元気。間もなく大明神沢の出合いとなり左の毛勝谷をのぞむと標高差 1200m の大雪渓が迫ってくる(白馬大雪渓は 600m)。一步一步の急登をキックステップでつめ、三ツ又付近でアイゼンを着用して、更に60分進んだ縦の木の折れた枝地点で渡辺氏が体調を思い残ることとした。

コルまでの1ピッチはボーサマ谷に入るが更なる急登で足元が涼しい、熊笹のコルで一本とりヤッケを着込んで雪稜を進み北峰の頂上に立つことができた。頂上の風は強いが春風で心地よい、真新しい頂上プレートを手と一緒に記念写真を撮影して下山に入る。

コルで最後の身繕いをして、急下降の第一歩にはいる。息の抜けない連続となるが、ボーサマ谷を過ぎたあたりで先行パーティの一人が足を滑らせ目の前を 1000m 程滑落して見えなくなる。同行者の一人も足を滑らせ思わず大声を出してしまうがこちらは直ぐに止まり一安心。(先の一人は渡辺氏のツエルトを破り停止していた)

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・
翌日は「魚津埋没林博物館」で、2000年前は一带が杉の森で立山あたりまで続いていたことを知る。

リーダー所見 下山時には肝を冷やす場面もあったが、コースの難位度や雪上歩行技術も判らない登山者が増えているのが実態のようである。反省をしつつも、今回は岡田君の名ガイドで念願の北方稜線の毛勝山を楽しむことができ。

ついでに「屋気楼」をと期待して海をじっと望見するも、今回は時期を逸していたようで残念至極。

確認(リーダー)
藤田 04/05/30
作成(報告者)
藤田 04/05/30